

武雄市行政改革プランの主な成果〔令和6年度〕

本市では、市民とともに次世代へつなげる健全なまちづくりを目指すため、「行政サービスと資産を見直す」、「行政サービスのデジタル化を図る」、「市民とつながる 地域を活かす」、「職員の働き方と職場を変える」、「将来へ持続できる経営を目指す」を改革の戦略と位置づけ、令和3年3月に第4次行政改革プラン(令和3年度～令和7年度)を策定しました。

このプランに基づき、迅速に対応するコンパクトな組織体制、持続力ある健全な財政運営を目指し、行政改革の35の具体的な取組項目を定めて取り組んでいます。このたび令和6年度の進捗状況をまとめましたので、主な成果をお知らせします。

行政サービスと資産を見直す

民間力の活用

- ◆令和7年度からの放課後児童クラブ完全民間委託に向け公募型プロポーザル選定を実施し、民間委託業者を決定しました。
- ◆西川登小学校・東川登小学校に加え、若木小学校・武内小学校の水泳授業について、民間委託を行いました。

公共施設マネジメントの推進

- ◆武雄市新文化交流施設エリア整備について、既存施設（小ホール棟・成人棟・集会棟）の解体工事、ランドスケープ実施設計等を実施し、令和9年開館に向け整備を進めました。

行政サービスのデジタル化を図る

行政手続きのデジタル化

- ◆マイナンバーカードの交付率は89.9%となりました。（前年度比+7.4%）
- ◆たけおスーパーアプリを導入し、オンライン申請などを利用しやすくする環境を整えました。
- ◆令和6年度は、児童扶養手当現況届予約、妊娠届予約、児童手当・子どもの医療費申請等オンライン手続きの対象を拡充しました。
- ◆オンライン公共施設予約システムを導入し、体育施設と山内農村環境改善センターの予約がオンラインでできるようになりました。

市民とつながる 地域を活かす

地域経済の活性化

- ◆地域経済の活性化のために、たけおPayを導入しました。
- ◆たけおPayを活用した西九州周遊スタンプラリーを実施し、観光客誘致を促しました。
- ◆「宿泊施設等整備奨励制度」や「宿泊施設魅力向上支援事業補助金」を活用して、宿泊施設12施設へ支援を行い、観光の魅力向上を図りました。
- ◆JAや佐賀県と連携して、みどり地区トレーニングファーム事業等に取り組み、5名が新規就農されました。

職員の働き方と職場を変える

働き方改革の推進

- ◆職員の能力や専門性の向上のため、海外研修に職員を派遣しました。
- ◆職員の自己研鑽を支援するため、資格取得にかかる費用を助成しました。

定員適正化の推進(組織改編)

- ◆各種政策の更なる推進のため、組織改編を行いました。結果として、1部4課12系の減少となり、組織のスリム化を図ることができました。
- ◆不登校支援・特別支援教育を充実させるため「多様な学び支援室」を設置しました。

将来へ持続できる経営を目指す

自主財源の確保

- ◆まちづくり応援基金への積み立てを行いました。 1億9549万円
- ◆遊休資産等を売却しました。 2041万円
- ◆基金を運用することで利子収益を生み出しました。 4295万円
- ◆企業誘致の促進に伴い、税収が増加しました。 222万円
- ◆市民球場、市民体育館のネーミングライツによる収入を得ました。 700万円
- ◆令和7年4月1日の使用料改定及び減免基準の見直しに向け、条例や規則の改正・ガイドラインの策定を行いました。

公営企業・特別会計等の経営健全化

- ◆競輪事業 収益から5年連続で一般会計への繰出 4億3000万円
競輪施設整備基金への積立 7億円
- ◆工業用水道事業 令和6年9月5日付の協定書に基づき、令和7年4月1日から杵島工業用水道企業団へ事業を移管しました。

取組項目以外の実施状況

- ◆物価高騰への対応として、「物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金」を活用し、物価高騰の影響を受けた市民や事業者への支援を実施しました。また、公共施設の指定管理料への物価スライド制の導入に向けた協議を行いました。
- ◆「武雄市 新・創造的復興プラン」のもと、ため池浚渫や雨水貯留タンク購入補助などを継続して実施し、遊水公園整備や公共施設等治水活用調査を行いました。また、気候変動に対応したまちづくり（モデル都市構想策定）のために、関係機関との協議及び地元意見交換会を開催しました。
- ◆米農家に対し、生産増のための支援として、スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）対策を実施しました。
- ◆ふるさと納税にて、ガバメントクラウドファンディングを活用し、「地域猫活動」「治水対策」に対する寄附を受け付けました。